

だれもが幸せに

マドリッド日本人学校では、毎年12月に、小学部の子どもたちが学校近隣の高齢者福祉施設「Casablanca」を訪問し、高齢者の方たちと触れ合いながら福祉についての学びを深めています。

日本の学校でも「福祉教育」を推進していますが、「福祉教育」というときの「福祉」は「人を幸せにすること」や「よりよく生きること」を意味し、「『ふだんのくらしのしあわせ』を実現する営み」であるといわれることも考えられます。

何を幸せと思うかは、人によって様々な感じ方があり、だれもが「自分の幸せ」を願っています。それには互いに、「他の人の幸せ」を大切にすることとつながります。「福祉教育」とは、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、年少者も高齢者も、障がいのある人もない人も、国籍や言葉の異なる人も、一人ひとりそれぞれの人の考え方、生き方を尊重し、「ともに生きる力」を育てていくことです。こんな社会を目指すことで自分も幸せになっていくという考えなのです。

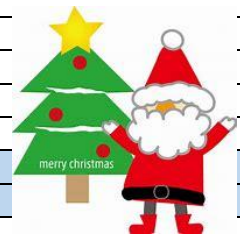
マドリッド日本人学校でも「年齢・言葉・経験」等、自分とは様々な「違い」をもつ人たちとの出会いがあります。普段の生活の中で「違いを認め合い」共生していくことは「互いの心の豊かさを成長させること」につながります。これは「国際性」を身につけていくための第一歩だと考えます。

これからも「心豊かな児童生徒」を育てるための様々な教育活動に取り組んでまいります。



12月の予定

1	日	
2	月	小学部福祉施設訪問 全校集会
3	火	委員会
4	水	ページャランチ
5	木	英語検定申込〆切
6	金	憲法記念日
7	土	
8	日	無原罪聖母の日
9	月	振替休日
10	火	チャレンジ漢字テスト(小学部)奉仕活動(中学部)
11	水	ページャランチ
12	木	
13	金	参観日 保護者全体会 面談 部活動なし
14	土	
15	日	第4回実力テスト
16	月	
17	火	クリスマス集会
18	水	日本食ランチ
19	木	
20	金	部活動なし
21	土	
22	日	
23	月	漢字検定申込〆切
24	火	終業式 12:20 下校
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	



学びを深める社会見学

11月11日に社会見学を行いました。「校外」に出かけ、実際に社会で働いていらっしゃる方からお話をうかがったり、実物を見学することで「校内」での学びをさらに深めることがねらいです。

今年は小学部は「チョコレート工場と赤十字病院」、中学部は「INEF(大学)とティッセン=ボルネミッサ美術館」にそれぞれ分かれて見学しました。

チョコレート工場では「チョコレートはスペインからヨーロッパ全土に広がっていったこと」、赤十

字では「事故や災害時に命を守る仕組みについて」、INEF では「アスリート養成のための科学」、ティッセソ=ボルネミッサ美術館では「スペイン絵画の魅力」など初めて知ることが多く内容の濃い見学となりました。

初めて知ったこといっぱい!!

小学部3年 K.H

私が社会見学で初めて知った事は、せい品になるチョコレートの作り方と、心電図のはかり方です。

初めに、チョコレート工場に行きました。そして、工場ではたらいしている人に、色々なお話を聞きました。中でも、チョコレートの作り方が一番面白かったです。作り方は次の通りです。

①カカオを発酵させ、かわをむく。②バニラ、牛乳、さとうをませる。③なめらかにする。④かたをとる。⑤冷やしてかたまったらできあがり!!

チョコレートは作るのがたいへんそうだな…。と思いました。

さて次は赤十字びょういんへ行きました。そこで心電図をとってもらいました。私は、うでにまいてもらうタイプだと思っていたのですが、シールを手首、足首につけるタイプでした。けんさが終わって心電図をコピーしたものをもらったのですがまったく意味が分かりませんでした。家に帰ったら、お母さんに見てもらおうと思いました。

今日一番、心にのこっているものは、チョコレート工場の近くに行ったしゅんかん、チョコのにおいがしていたことです。東京で食べていたカカオニブみたいないいにおいだなぁと思いました。午後と言った病院では、少しまづ時間があって入れるかドキドキしましたが、ぶじ入れました。マドリッドに来て、はじめての社会見学、楽しかったです。

社会見学で学んだこと

中学部3年 H.N

今回の社会見学で僕はいろいろなことを知る

ことができました。まずは午前中に行った大学です。その大学では多くのスポーツに触れることができ、また施設も充実していました。そこでは学生が本気でそのスポーツに取り組んでいる姿があり、かっこいいなと感じました。他にもスポーツだけでなく、体についても知ることができました。特にサーモグラフィーを使って自らが今後けがをするであろう場所を知ることができるというのには驚きました。

続いて、午後にはティッセソ=ボルネミッサ美術館に行きました。僕自身が想像していた美術館よりも規模が大きく様々なジャンルや年代の作品がありました。前もって調べていたので自分が見たかった絵も見ることができました。また、新しく写真ではわからなかった筆のタッチや色遣い、立体感など実際行ってみないとわからなかったことがたくさんあるのを知りました。

この社会見学を通して、他にも色々な美術館に行きたいと思うようになりました。



この社会見学は今までと違い、本当にたくさんのことを学んだと思います。

ホクホクの焼き芋集会

11月12日に児童生徒企画集会が開かれました。保護者の皆様と共にドッジボール等のレクレーションを楽しんだあと、焼き芋を食べました。

用務員のロベルさんが午前中から枯葉を燃やして準備してくれた火の中に、休み時間を使ってそれぞれの子どもたちが用意したサツマイモやジャガイモを投入。レクレーションが終わるころにはホクホクの焼き芋が出来あがりまし



た。「たきび」を斉唱してからの実食。日本の秋の情緒をたっぷり味わいました。

日本人会バドミントン大会で活躍

11月24日、日本人会主催のバドミントン大会に多くの子どもたちが参加しました。

マド日の児童生徒は、普段から休み時間や部活動で練習をしています。何回も参加している子どもたちは年々上達していることがわかります。このような場面でも、たくましさや体力の向上を実感することができました。

日本人会の一般の方も参加され、学校の枠を超え、たくさんの方と触れ合うことができました。



かみからしまうま

11月21日に切り絵作家の下村優介先生をお招きし、講師招聘学習を行いました。下村先生は日本でも活躍されていますが、ヨーロッパでも切り絵教室を開いています。マドリッドを訪問されたときには来校していただき、5回目の教室でした。

今回のテーマは「しまうま」です。1本のアートカッターから個性豊かな「縞模様」の「しまうま」が次々と切り出されました。先生のお手本を参考に、作業に集中しこまかく繊細な作品を仕上げていく子供たちの姿に、日本人に伝わる「ものづくり」への姿勢を感じる時間でした。



下村優介先生へ

小学部 3年 K.R

先日は切り絵を教えてくださいましてありがとうございます

ございました。私は、はじめて切り絵を体けんしました。はじめは、かんたんそうだなあ。と思ったけれどとても切るのがむずかしかったです。いちばん集中してがんばったところは、足を切るこまかい部分と、色の組み合わせができたことです。できたときはとてもうれしかったです。また切り絵をやってみようと思いました。



マド日の学び

●小学部 説明文の学習

小学部の国語で説明文の学習をしています。説明文から要点を読みとり、筆者の意見や主張を理解していく内容です。この学習をもとに、自分でテーマを決め説明文を書いていきます。

1年生は「自分の好きな自動車」、3年生は「材料が形を変えて食料品になっているもの」の説明文を書いていくようです。4年生は、学校生活のひとこまを説明する部活動リーフレットを作っていました。子ども一人一人のテーマに沿って丁寧に指導しています。



●小学部 5・6年 書写

日本人学校では、書写の授業にも取り組んでいます。この日は5年生が毛筆、6年生は硬筆について学習しました。画数が多い漢字も筆順を正しく理解し、一画一画の筆の運びに細心の注意を払い、書き上げていきました。書写は日本の文化として大切にしていきたい学習です。



●小学部 福祉施設訪問に向けて

12月2日の福祉施設訪問に向けて、学活や道徳、マド日タイムの時間で「福祉」に関する内容を取り上げ事前学習に取り組んできました。

車いすや高齢者疑似体験等を通して自分が普段何気なくできていることも、違う立場の人たちの視点から考えると、大変なことであることに気づきました。当日は、子どもたちが高齢者の方たちに喜んでもらおうと用意したゲームや歌でふれあってきました。



●中学部 3年 面接練習

早いもので、中学3年生は進路選択の時期を迎えます。普段の学習の成果を受験で発揮するように努力をし続けることはもちろんですが、面接試験の準備も大切です。担任と共に「中学校生活で一番思い出に残っていること。そこから学んだこと」「自分の長所や短所」「得意でないことの克服方法」「進路先での目標」「自分を1分間で紹介する」などの質問内容にこたえられるよう、準備をしています。昼休みや学活等の時間を利用して、友だちや先生と面接練習を繰り返しています。

進路選択を通して、今までの自分を振り返り、これからの目標をみつけていきましょう。進路が決まった時、また一回り成長していることを期待しています。



派遣教員のつぶやき

スペインと長崎

山田久美子

2019年も残りわずかとなりました。いよいよ、来年2020年の夏には、日本でオリンピック・パラリンピックが開催されます。世界じゅうからたくさんの選手や観客が日本に来られます。

さて、このオリンピックに向けて、各自治体がホストタウンとなり、いろいろな取り組みをしていることをご存じですか？ちなみに長崎県は、スペイン、ポルトガル、フィリピン、マレーシアのホストタウンです。このホストタウンの縁で、私は、今回スペインに派遣されました。

スペインと長崎の関係は、1549年にザビエルが鹿児島に到着して、その後平戸に来て布教活動を行った時から始まります。平戸には、ザビエルが3度訪問したことを記念してザビエルの像が建てられ、「平戸ザビエル記念教会」もあります。

また、大村藩の大名大村純忠は、日本初のキリシタン大名となり、天正遣欧少年使節として4人の少年をスペイン・ポルトガルに大村から派遣しています。後に、厳しい禁教政策で、この4人の少年は波乱の人生を送ることとなるのですが…。この少年たちは、1584年にマドリッドに到着して、フェリペ2世に謁見しています。



さて、話は戻って長崎は、スペインのホストタウンとして相互の文化の学習会を開いて、長崎県の魅力を発信したり、事前キャンプの受け入れの準備をしたりしています。

そして、私は、ここマド日で長崎県のちょっとマイナーな歴史を紹介して、地方の魅力を発信したいと思います。もし、長崎に旅行される時は、グラバー園やハウステンボスもいいですが、ちょっと足を伸ばして、平戸や大村にも行ってみたいと思います。



これから私は、スペイン語を勉強して、ザビエルの足跡をたどってみたいなあと思っています。

長崎県の知られざる魅力は、次回へと続きます…。